

衛星通信を利用した公開講座の可能性

—大学間連携による講座の実施を通じて—

上 條 秀 元
(宮崎大学)

仲 野 寛
(島根大学)

原 義 彦
(宮崎大学)

はじめに

近年、人々の学習ニーズの多様化や高度化・専門化が進んでおり、また、現代的課題に対応した学習機会の充実が求められている。しかし、公民館等の地域の生涯学習・社会教育施設においては、これらに十分に対応できる指導者が不足している。一方、大学は教育機能や研究成果を広く社会に開放し、生涯学習の振興に資することが重要な課題となっている。このため、大学では公開講座やリフレッシュ教育等を実施しているが、大学から遠く離れた地域の人々にとっては、大学まで足を運ぶことが難しいことから、学習ニーズが満たされないという実状がある。

この点で、衛星通信は、①画像や音声を広い地域に送信できること、②地球局を移動させればどこからでも自由に迅速に回線を設定できること、③リアルタイムの双方向通信ができること等の特徴を有しており、教育・学習への利用に大きな期待がもたれている。

生涯学習支援において衛星通信を活用した事業として、文部省が平成8年度から10年度にかけて、「衛星通信利用による公民館等の学習機能高度化推

進事業」を実施している。この事業ではスーパーバード A 号機を利用しており、実施大学数は、平成 8 年度は 2 大学、平成 9 年度は 7 大学、平成 10 年度は 7 大学であった。また、平成 11 年度以降は子ども放送局に使用されているスーパーバード B 号機を利用して、公開講座（エル・ネット オープンカレッジ）が実施されている（実施機関は高等教育情報化推進協議会）。これにより、全国約 1200 か所の会場に講義を配信することが可能となった。

以上のような動きの中で、宮崎・島根国立大学衛星通信利用推進協議会は、平成 10 年度に文部省の委嘱を受けて、衛星通信を利用した公開講座「古代ひむかといづもー古代人の死の意識と死者への鎮魂ー」を宮崎大学と島根大学の連携により実施した⁹⁾。この事業では、プログラム編成や指導面での 2 大学の教官相互及び県や市の文化財関係者との緊密な連携、「現場からの発信」をモットーとした発掘現場等からのライブによる講義の実施、放送会場と受信会場の間のテレビ電話による双方向機能の拡充などの新しい試みが行われた。

衛星通信を利用した公開講座に関する研究には、高等教育情報化推進協議会の報告書⁹⁾がある。この報告書は、本研究が対象としている事業より 1 年後のものであるが、平成 11 年度のエル・ネット オープンカレッジの実施状況を分析している。ここでは、実施された公開講座のタイプを、講座を提供する大学と受講施設または受講者との関係から、「従来の公開講座を放送する方式」、「大学と地域の連携方式」、「施設の独自選択方式」の 3 つに分類している。この分類によれば、本研究の事業は第 2 のタイプに当てはまると言えよう。

また、本稿の分析の主な視点と仮説は次の通りである。つまり、受講者の学習効果を高める要因には少なくとも次の 3 点が考えられる。それは、まず第 1 に、遠隔地の大学が連携することにより、講座のプログラムの充実が図られること、第 2 に「現場からの発信」により臨場感のある講座となること、第 3 に、テレビ会議システムの導入により、遠隔地の受講者と講師との間で双方向による対話が促進されること、である。以下、このような視点によりこの事業の実施状況を分析し、受講者へのアンケート調査の分析等を通じて事業の成果と課題を明らかにしたい。

なお、執筆分担は、「はじめに」が上條，1 (1) が原，1 (2) が仲野，2 が仲

野，原，3が上條，仲野，原である。

1. 事業の実施状況

まず，ここでは本稿の事例分析で取り上げる衛星通信を利用して行われた大学公開講座の実施状況について示しておきたい。

(1) 事業の企画・運営と大学間連携の方法

① 事業のねらいとプログラムの内容

第1表 公開講座「古代ひむかといづも」のプログラム

回	期日/時間	テーマ	講 師	放送会場	受講会場
1	平成11年 2月6日(土) 13:30～ 16:30	古代ひむかの 古墳と社会	宮崎大学教育学部教授 宮崎県総合博物館西都原資料 館主査 宮崎県総合博物館西都原古代 生活体験館主査 宮崎県埋蔵文化財センター主 査 宮崎県教育庁文化課主事	宮崎県総合博物館西 都原古代生活体験館 (宮崎県西都市)	宮崎県、島根県、 鳥取県の公民館等 (7館)、島根大 学学生涯学習教育研 究センター、受信 設備を有する全国 の施設
2	2月7日(日) 13:30～ 16:30	死者への鎮魂 と祈り	宮崎大学教育学部教授 宮崎市教育委員会文化振興課 長	みやざき歴史文化館 (宮崎県宮崎市)	宮崎県、島根県、 鳥取県の公民館等 (7館)、島根大 学学生涯学習教育研 究センター、受信 設備を有する全国 の施設
3	2月13日(土) 14:00～ 16:30	古代いづもの 古墳と社会	島根県教育庁文化財課・島根 県埋蔵文化財調査センター課 長補佐	島根県立八雲立つ風 土記の丘 (島根県松江市)	宮崎県、島根県、 鳥取県の公民館等 (7館)、宮崎大 学学生涯学習教育研 究センター、受信 設備を有する全国 の施設
4	2月14日(日) 13:30～ 16:30	鎮魂の遺跡が 語る古代社会	<島根会場> 島根大学法文学部教授 島根県立女子短期大学学長 島根県立八雲立つ風土記の丘 所長 島根県埋蔵文化財調査セン ター課長補佐 <宮崎大会場> 宮崎大学教育学部教授	島根県立八雲立つ風 土記の丘 (島根県松江市) 宮崎大学学生涯学習教 育研究センター (宮崎県宮崎市)	宮崎県、島根県、 鳥取県の公民館等 (7館)、宮崎大 学学生涯学習教育研 究センター、受信 設備を有する全国 の施設

この公開講座では、近年の古代史研究の最新情報を交えて、古代ひむか（宮崎県）といづも（島根県）の埋葬形態のちがい等を参考にしながら、古代人の死の意識と死者への鎮魂の姿に焦点を当て、古代日本社会の姿を考えることをねらいとしており、事業の一環として衛星通信やマルチメディアを利用した学習の効果等について調査なども行われている。

第1表はこの公開講座のプログラムを示したものである。全4回にわたる講座で、第1回、2回を宮崎県の会場から、第3回を島根県の会場から、第4回は島根、宮崎の両県の会場から講座が放送されている。また、その放送は、宮崎県、島根県、鳥取県の公民館をはじめ、全国の受信設備をもつ施設で受信、受講された。受講者は宮崎県、島根県、鳥取県に限れば、合計で394名であった。

プログラムの特徴をあげると次のように整理される。

第1に、「現場からの発信」を意図し、放送を遺跡の現場や資料館等から行ったことである。従来、大学が行う公開講座の多くが大学の講義室や教室で行われてきた。しかし、本講座内容の性格上、臨場感のあふれた講座となるよう古代の遺跡の現場やそれらの周辺にある資料館などを放送会場としている点である。

第2に、公開講座の講師は大学の考古学や歴史学などの研究者だけでなく、遺跡の発掘、整備等に直接関わっている埋蔵文化財センターや博物館の研究者、行政関係者などであることである。遺跡そのものについての講義にとどまらず、具体的な発掘の様子や、現在、そして今後の整備の方向等についての解説も講座に取り入れている。

第3は、テレビ電話による質疑を取り入れ受講者の参加意識を高めている点である。講座が講師による一方向的なものにならないよう講義の後半は受講者の質問の時間とされた。質問は、質問の時間の事前にファックスで受け、それを整理した上でテレビ電話を使って講師との質疑応答を行った。また、その様子は衛星通信によって各受講会場で視聴することが可能であった。

第4にテレビ電話による双方向のパネルディスカッションを取り入れたことである。第4回目の講座は島根と宮崎の双方の会場が放送会場となっているが、宮崎会場の講師は、衛星通信を介したテレビ電話を通じて講義を行っている。

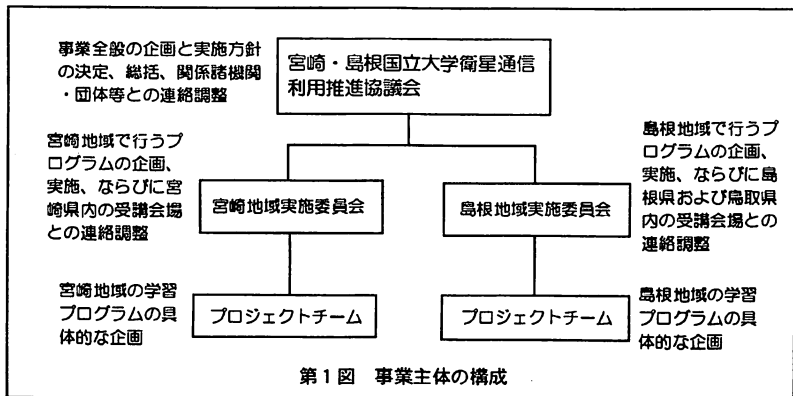
第5は、講義にはビデオ、写真、図表を多く取り入れた点である。放送会場から遠い発掘の現場や遺跡の説明などには、できるだけ映像資料（ビデオ等）を用いている。これには、既存のビデオを用いたものもあるが、本講座のために収録したものもある。また、写真やイラスト等を多数用いて理解しやすい講座となるようにしている点である。

第6に、講座のテキストには図表等を100点以上取り入れ、内容の理解を図っている点である。放送時に提示する図、写真、イラスト等はすべてテキストに掲載されている。これは、放送時に図や写真を見逃した場合でもテキストで確認できるようにしたためである。

第7は、講座の期日を2週にわたる連続する土日の4日間に集中し学習効果を高めたことである。連続する土日としたことには諸々の要因があるが、短期間に集中することにより学習の効果が高まるようにしたことも理由の1つである。また、講座の時間帯については、特に島根、鳥取地域の気候条件を考慮している。

② 講座の企画と運営

本講座の企画、運営の主体となったのは宮崎・島根国立大学衛星通信利用推進協議会である。この協議会は宮崎大学、島根大学の関係者を中心として、両県教育委員会関係者、博物館等の関係者、受講会場となる町村の教育委員会関係者等で構成されている。また、その下部組織として、宮崎、島根の各地域で行うプログラムの企画、実施、受講会場との連絡調整を行う地域実



施委員会が、さらにその下部組織として学習プログラムの具体的な企画を行うプロジェクトチームが設置された（第1図）。

③ 大学間連携の方法

距離的に離れた場所にある大学が連携をとってこのような事業を行うには、大学間の連携はもとより、各大学とそれぞれの地域との連携をとることが事業運営には欠かせない。そこで、この事業では、次の点を考慮して大学間連携による公開講座の企画、運営を行っている。

まず第1は、公開講座の学習プログラムの具体的な企画を行う宮崎、島根の各地域プロジェクトチームの連携により、講座プログラムに一貫性をもたせたことである。講座プログラムの一貫性と整合性をもたせるため、各プロジェクトチームの委員が随時綿密な連絡を取り合った。

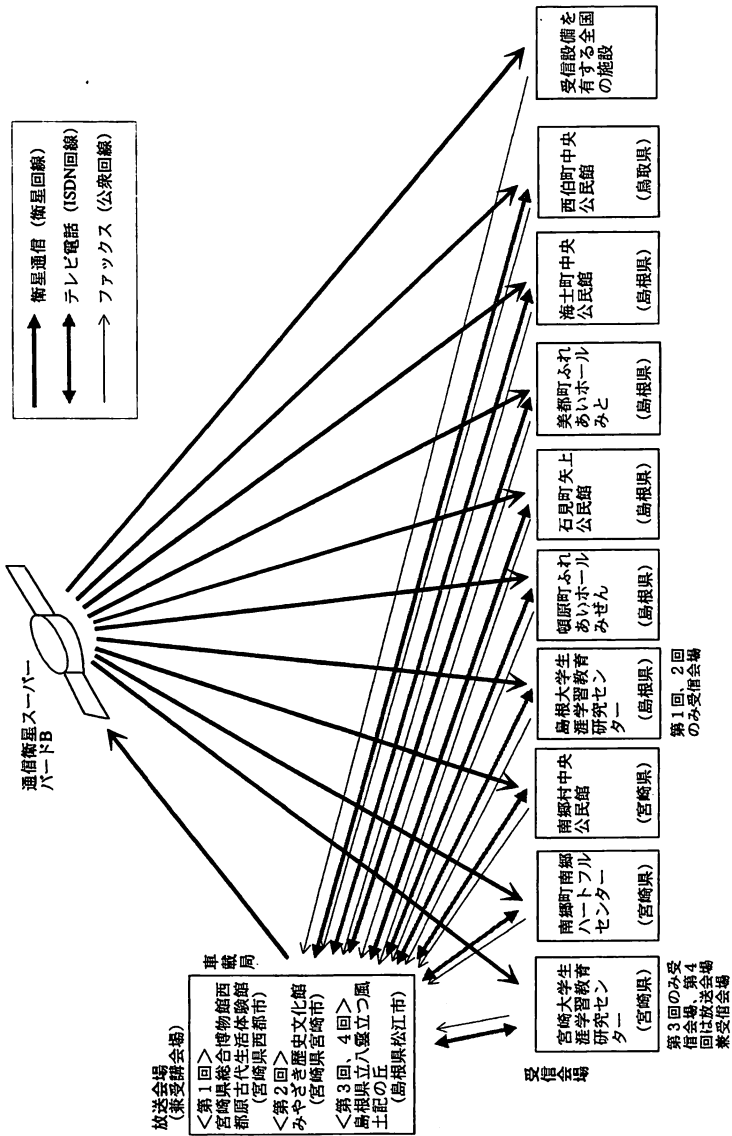
第2に、協議会等の委員を幅広く委嘱したことである。協議会委員、地域実施委員会委員、プロジェクトチーム委員には、講座の内容に関わる専門家のほかに、宮崎県、島根県、鳥取県の県、市町村の教育委員会関係者、博物館や資料館等の職員に依頼している。本講座の企画は宮崎大学と島根大学を中心としながらも、宮崎、島根、鳥取の各県関係者の協力が得られたことにより、幅広い分野から様々な意見を取り入れた企画がなされ、また地域の教育委員会、生涯学習関連施設等と密接な連携を図った運営がなされた。

第3は、宮崎県教育委員会、島根県教育委員会、宮崎市教育委員会の後援を得たことである。これにより、放送会場となった各教育委員会所管の施設や関係者の方々の協力が得やすくなった。また、受講者募集等にも協力していただくことができた。

第4は地元のマスコミとの連携である。公開講座の実施にむけて事前のテレビによる講座の案内、地元の新聞、ならびに全国紙の地方版での講座案内の掲載は、受講者の募集に効果的であった。また、放送当日はマスコミ関係者の取材があり、テレビのニュースや新聞においても講座の実施が報じられた。とりわけ、NHK テレビでは宮崎の放送会場と島根の受講会場の様子をあわせて報じ、大学間連携による事業のPRに有効であった。

(2) 公開講座の通信システムの構成

本公開講座の送受信システム、及び双方向通信システムは第2図の通りである。



第2図 公開講座の通信システムの構成

① 講座の送受信システム

本公開講座は、前述のように「現場からの発信」を重視するという視点から、毎回の講義の課題に最も適する場所を講義の拠点つまり放送会場とし、全4回の講義のうち前半2回を宮崎県西都市と宮崎市から、後半2回を島根県松江市から生中継で発信し、受信設備を有する宮崎・島根両県の調査研究協力施設8か所を受信会場として衛星通信システムを構築して実施した。

毎回の講義では、放送会場に送受信可能の車載型地球局(車載局)を配置し³⁾、受信会場にはCS受信専用設備(CSアンテナ、CSチューナー)を設置し、各施設既設のTVまたはプロジェクターに接続し、TVモニターやスクリーンで公開講座が受講できるシステムとした。このシステムを基本構成として1~4回の講義を実施したが、最終の4回目ではパネルディスカッションを行うため、宮崎大学と島根の放送会場をテレビ電話で結び、この模様を衛星通信で各会場に配信した。

② 放送会場と受講会場との双方向通信システム

講義やパネルディスカッションにおける受講者の質問や意見等が活かされるよう、放送会場と受信会場との双方向通信を行うシステムを設置した。このシステムは、すべての受信会場から質問や意見等を放送前に収集するためのAシステム、次に受信会場の質問者が直接映像で放送に参加して質問するBシステムの2つのサブシステムから構成されている。

Aシステムでは、各受信会場と放送会場にファックス(1台)を設置し、NTTの専用回線で結び、常時、放送会場で質問用FAXを受信できる状況を確保した。Bシステムでは、受信会場の質問者が直接講座の講師に質問ができるようすべての会場に臨時のISDN回線を敷設し、受信会場には各1台ずつのテレビ電話を、放送会場には放送用、スタンバイ用、事前連絡用の3台のテレビ電話を設置した。これにより、受講者の質問等はファックスとテレビ電話で放送会場に送られ、講義及び質問と回答等は、衛星を通して放送会場から受信会場へと送信できる双方向通信システムが確保された。

2. 事業の評価 ―受講者を対象とした調査結果から―

次に、この公開講座に対する評価がどのようなものであったかを受講者を対象に行った調査結果⁹⁾から探してみる。第1回から4回までの各回の評価については紙幅の制限があるためここでは省略し、講座全体に対する評価を示すことにする。

第2表 講座全体の評価

(単位：%)

	とてもよかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった	無記入	計
4回の講座内容の進み方（流れ）	43.0	36.8	2.1	0.4	17.8	100.0
講座内容の深まり	36.1	43.6	4.6	1.2	14.5	100.0
講座テキストの内容	43.0	41.3	2.5	0.4	12.8	100.0
宮崎・島根の両会場が連携して実施したこと	66.5	21.9	1.2	0.0	10.3	100.0
テレビ画面の大きさ	46.3	41.3	5.0	0.4	7.0	100.0
テレビ画面での講師の見え方	43.0	44.6	5.0	0.0	7.4	100.0
テレビ画面の文字や提示物の見え方	32.6	47.1	12.4	0.4	7.4	100.0
テレビ画面の映像と音声の状態	37.6	44.2	8.3	1.7	8.3	100.0
質問をファックスで受付けたこと	52.5	33.1	2.1	0.4	12.0	100.0
質問のやり取りをテレビ電話で行ったこと	50.0	33.1	5.0	0.0	12.0	100.0
放送会場の受講者のようすや雰囲気 の伝わり方	30.3	42.7	15.4	0.8	10.8	100.0

第2表は講座の内容、方法、画面の見え方等についての11の項目にわたる受講者の評価を示したものである。「とてもよかった」と感じている比率が最も高いのは「宮崎・島根の両会場が連携して実施したこと」(66.5%)であり、2つの大学や地域が連携して行ったことへの評価が全体の中では高かった。これに次いで比率が高い項目は、「質問をファックスで受付けたこと」(52.5%)、「質問のやり取りをテレビ電話で行ったこと」(50.0%)である。これらの比率が高いということは、講師による一方的な講義ではなく、ファックスで質問を受付けその質議応答をテレビ電話を通じて行うという双

176 各地の生涯教育

方向的な質問形態を可能にしたことへの評価と考えられ、ファックスやテレビ電話の有効性を示しているといえる。これに対して、「とてもよかった」の比率が低いのが「テレビ画面の映像と音声の状態」(37.6%),「テレビ画面の文字や提示物の見え方」(32.6%),「放送会場の受講者の様子や雰囲気

第3表 地域別にみた講座全体の評価

(単位: %)

	地域	とてもよかった	まあまあよかった	あまりよくなかった	よくなかった	無記入	計
4回の講座内容の進み方(流れ)	宮崎県	40.0	32.9	2.4	0.0	24.7	100.0
	島根県・鳥取県	44.6	38.9	1.9	0.6	14.0	100.0
講座内容の深まり	宮崎県	37.6	35.3	9.4	2.4	15.3	100.0
	島根県・鳥取県	35.3	48.1	1.9	0.6	14.1	100.0
講座テキストの内容	宮崎県	43.5	37.6	3.5	0.0	15.3	100.0
	島根県・鳥取県	42.7	43.3	1.9	0.6	11.5	100.0
宮崎・島根の両会場が連携して実施したこと	宮崎県	71.8	17.6	0.0	0.0	10.6	100.0
	島根県・鳥取県	63.7	24.2	1.9	0.0	10.2	100.0
テレビ画面の大きさ	宮崎県	63.5	29.4	1.2	0.0	5.9	100.0
	島根県・鳥取県	36.9	47.8	7.0	0.6	7.6	100.0
テレビ画面での講師の見え方	宮崎県	49.4	42.4	1.2	0.0	7.1	100.0
	島根県・鳥取県	39.5	45.9	7.0	0.0	7.6	100.0
テレビ画面の文字や提示物の見え方	宮崎県	38.8	49.4	7.1 ¹⁾	0.0	4.7	100.0
	島根県・鳥取県	29.3	45.9	15.3	0.6	8.9	100.0
テレビ画面の映像と音声の状態	宮崎県	45.9	44.7	4.7	0.0	4.7	100.0
	島根県・鳥取県	33.1	43.9	10.2	2.5	10.2	100.0
質問をファックスで受付けたこと	宮崎県	56.5	29.4	1.2	1.2	11.8	100.0
	島根県・鳥取県	50.3	35.0	2.5	0.0	12.1	100.0
質問のやり取りをテレビ電話で行ったこと	宮崎県	52.9	28.2	5.9	0.0	12.9	100.0
	島根県・鳥取県	48.4	35.7	4.5	0.0	11.5	100.0
放送会場の受講者のようすや雰囲気の伝わり方	宮崎県	36.9	42.9	8.3	0.0	11.9	100.0
	島根県・鳥取県	26.8	42.7	19.1	1.3	10.2	100.0

の伝わり方」(30.3%)である。このことは、映像と音声のずれや映像の見え方など通信機器やメディアそのものの性能の向上に関わる課題が大きいことと、このようなメディアを通じて会場の雰囲気伝えることの難しさを示しているといえるだろう。

なお、項目全体をみると、「とてもよかった」と「まあまあよかった」と回答している人を合計すると、個々の項目で相違はあるが、全体の7~8割の受講者がよかったと感じているのがわかる。

では、講座全体に対する評価は地域別、会場の別によってどのような違いがみられるであろうか。第3表は講座全体に対する評価を宮崎県と島根県・鳥取県の地域別で示したものである。「とてもよかった」の比率を比較すると、「4回の講義の内容の進み方(流れ)」では島根県・鳥取県の比率の方が高いが、それ以外の項目はすべて宮崎県の比率が高くなっている。その中でも、「テレビ画面の大きさ」の場合はその比率の差が26.6%もある。また、「テレビ画面の映像と音声の状態」(比率差12.8%)、「放送会場の受講者のようすや雰囲気の伝わり方」(同10.1%)も差が大きい。これについては、宮崎県の3つの受信会場のうち2会場で映像を大きなスクリーンに投影していたことを考えると、テレビモニターの大きさと映像、音声の状態と会場の雰囲気の伝わり方には相関があるのかもしれない。これと相対する形で、「あまりよくなかった」の比率では「放送会場の受講者のようすや雰囲気の伝わり方」、「テレビ画面の文字や提示物の見え方」、「テレビ画面の映像と音声の状態」で宮崎県より島根県・鳥取県の方が大きくなっている。

さらに、講座全体の評価が放送会場で受講した場合と4回すべて受信会場で受講した受講者でどのようなちがいがあのかをみておきたい。第4表はその結果を表したものである。「とてもよかった」の比率をみると、「宮崎・島根の両会場が連携して実施したこと」、「質問をファックスで受付けたこと」、「質問のやり取りをテレビ電話で行ったこと」という2つの地域の連携や会場同士の連携に関わる項目ではいずれも放送会場の方が常時受信会場の場合よりも高くなっている。このことは、講座の講師がいる放送会場ほど他の会場と連携をとること、ファックスやテレビ電話を活用して連携をとることを評価する傾向があることを示しているといえるだろう。

第4表 放送会場と常時受信会場の別でみた講座全体の評価

(単位：%)

	放送会場と常時 受信会場の別	とてもよ かった	まあまあ よかった	あまりよ くなかった	よくな かった	無記入	計
4回の講座内容の進 み方(流れ)	放送会場	47.0	31.3	0.0	0.0	21.7	100.0
	常時受信会場	40.9	39.6	3.1	0.6	15.7	100.0
講座内容の深まり	放送会場	41.0	34.9	3.6	0.0	20.5	100.0
	常時受信会場	33.5	48.1	5.1	1.9	11.4	100.0
講座テキストの内容	放送会場	49.4	31.3	1.2	0.0	18.1	100.0
	常時受信会場	39.6	46.5	3.1	0.6	10.1	100.0
宮崎・島根の両会場 が連携して実施した こと	放送会場	77.1	10.8	0.0	0.0	12.0	100.0
	常時受信会場	61.0	27.7	1.9	0.0	9.4	100.0
テレビ画面の大きさ	放送会場	48.2	41.0	1.2	0.0	9.6	100.0
	常時受信会場	45.3	41.5	6.9	0.6	5.7	100.0
テレビ画面での講師 の見え方	放送会場	41.0	45.8	4.8	0.0	8.4	100.0
	常時受信会場	44.0	44.0	5.0	0.0	6.9	100.0
テレビ画面の文字や 提示物の見え方	放送会場	32.5	45.8	13.3	0.0	8.4	100.0
	常時受信会場	32.7	47.8	11.9	0.6	6.9	100.0
テレビ画面の映像と 音声の状態	放送会場	38.6	39.8	10.8	1.2	9.6	100.0
	常時受信会場	37.1	46.5	6.9	1.9	7.5	100.0
質問をファックスで 受付けたこと	放送会場	60.2	26.5	0.0	1.2	12.0	100.0
	常時受信会場	48.4	36.5	3.1	0.0	11.9	100.0
質問のやり取りをテ レビ電話で行ったこ と	放送会場	54.2	28.9	3.6	0.0	13.3	100.0
	常時受信会場	47.8	35.2	5.7	0.0	11.3	100.0
放送会場の受講者の ようすや雰囲気の伝 わり方	放送会場	35.4	45.1	4.9	0.0	14.6	100.0
	常時受信会場	27.7	41.5	20.8	1.3	8.8	100.0

3. 事業の成果と課題

最後に、事業の成果と今後の課題についてまとめよう。

(1) 事業の成果

まず、事業の成果については、凡そ次の6点に整理できる。

① 衛星通信の利用による遠隔地の大学間連携の可能性を示すことができたこと

協議会の中心となったのが地方の2大学（宮崎大学、島根大学）であった。通常の公開講座をこのような遠く離れた大学同士で行うのは不可能であるが、衛星通信を利用することにより、遠方にある2つ以上の機関が連携した公開講座の実施が可能であることを示すことができた。

受講者の意識からも、宮崎と島根の会場が連携したことについて6割以上の人が「とてもよかった」と感じており、「まあまあよかった」という人と合わせるとほぼ9割になっている。

② 遠隔地の大学間連携により、講座のプログラムの充実が図られたこと

講座のプログラム編成は、宮崎と島根の講師及び運営関係者による綿密な協議を重ねて行われた。これにより、宮崎県と島根県の子供や遺跡等の比較やこれらの有り様から古代人の死生観を探るという講座のねらいに深く迫ることができた。

③ 「現場からの発信」により、臨場感のある講座となったこと

「現場からの発信」をモットーに、放送を遺跡やその周辺の資料館、歴史館等から行ったことにより、大学の講義室を会場とした講座と比較すると臨場感のある講座となり、受講者はよりアクティブな学習を行うことができた。

④ テレビ会議システムの導入による双方向性の充実

受講会場との双方向性をもたせるため、受講会場には放送会場に質問を送信するファックスを設置した。これは、前年度の山陰地域衛星通信利用推進協議会の事業でも行われたが、本年度の講座では、さらに、放送会場と各受講会場をテレビ会議システムで結んだことが特徴である。これにより、受講会場の雰囲気や質問者の様子を他の受講会場で視聴できたことは、学習意欲を高めるとともに、放送会場と他の受講会場の一体感を高めるものとなった。

これについて、受講者を対象とした調査結果によると、ファックスやテレビ電話を活用したことについては、全体においてはもちろん、男女においても半数以上の人「とてもよかった」と感じている。

⑤ 県や市町村等との連携が強化されたこと

事業の実施にあたっては、県教育委員会や地元の市教育委員会等の専門家に講師を依頼したり、施設の提供などで協力をいただいた。また、受講会場となった町村の教育委員会や施設にも協力をいただいた。今回の講座を機会に、宮崎大学や島根大学と関係機関等との連携が一層強化された。

⑥ 開かれた大学としての県民へのPRが推進されたこと

講座の当日には、宮崎、島根の各会場にマスコミの取材がみられ、講座の様子がニュースで放映されたり、新聞に掲載された。衛星通信を利用した大学公開講座の取り組みが広く宮崎、島根等の県民に知られたことは、地域に開かれた大学、遠隔地の生涯学習を支援する大学としての大きなPRとなった。

(2) 今後の課題

以上のような成果をあげる一方で、いくつかの課題も浮き彫りになった。これらの課題を解決していくことが、今後衛星通信を利用した公開講座を普及していくために必要と思われる。

① 学習内容の深化を図ること

受講者の学習内容についていえば、2つの地域が連携したことにより学習内容に広がりが見られたといえるが、受講者の評価を見る限りでは学習内容の深まりについては、他の項目と比較すると「とてもよかった」の比率は高くはなっていなかった（第2表）。今後は、学習内容の広がりのみでなく学習内容を深化させていく手段や方法を検討する必要がある。

② 時間配分の適正化

一つは時間配分の問題である。講座は1回3時間で、前半が講義（約1時間45分）、休憩（15分）を挟んで、後半が質問（1時間）という配分であった。60歳以上の受講者が6割以上ということもあり、前半の時間に休憩を挟んで欲しいという意見もあった。また、受講会場では、テレビ画面による受講のため、目が疲れやすいという事情も考慮する必要がある。したがって、全体の時間や時間配分については検討が必要である。また、時間の都合です

すべての質問に対する回答ができなかった。これについての検討も必要であろう。

③ テレビ会議システムの画像の向上を図ること

テレビ会議システムの画像は、機器性能の限界もあり、鮮明さという点からすると良い映像とは言いにいく、この点について指摘をした受講者が多かった。特に、2会場をテレビ会議システムで結んだ4日目のパネルディスカッションについては、音声と映像のズレもあり、受講者の評価は1～3日目と比較すると若干下がっている。また、テレビ会議システムによって双方向通信が可能になったが、画像の向上を図ることにより学習効果がさらに高まることが期待できる。

④ 資料等の提示方法を改善すること

講座内容の性格上、図表、写真、ビデオ資料の提示が多かった。このうち、書画カメラを通して提示する資料については、多少見にくい時があった。この講座ではテキストにも多くの資料を掲載したが、資料はできる限りテキストに載せると同時に、提示用にはより鮮明かつ適切な大きさの資料を作成する必要がある。

⑤ 資料作成の負担（時間と労力）を少なくすること

提示する資料の作成にかなりの時間と労力が費やされた。とりわけ、ビデオ資料の作成には、現地取材等を何度か行い、さらにそれを一定の時間内に編集するなど、予想した以上に時間と労力がかかった。今後衛星通信を利用した公開講座を普及していくためには、資料の作成をもっと容易に行えるようにすることが必要である。

⑥ 事業実施経費について

本事業のような衛星通信を利用した公開講座は、送受信のための設備やその運用にかかる経費は莫大なものであるため、こうした事業を広く普及していくためには経費的に容易に行えるようにしていく必要がある。そのためには、受講料を徴収し、その収入を講座運営にあてていくなども一方法であり、講座運営システムの検討も今後の課題である。

注

1) 宮崎・島根国立大学衛星通信利用推進協議会『衛星を利用した大学公開講座 古

182 各地の生涯教育

代ひむかといづもー古代人の死の意識と死者への鎮魂ー 事業実施報告書』(2000年3月)に事業の内容、成果等がまとめられている。

- 2) 高等教育情報化推進協議会『「エル・ネット オープンカレッジ」について(第1年次報告書)』, 2000年3月。
- 3) ただし, 第4回の放送会場の1つとなった宮崎大学生涯学習教育研究センターには車載局は配置されていない。
- 4) 調査はすべての会場の受講者を対象にして講座の最終回に行われた。回答者の総数は242名である。

参考文献

- 1 広島県衛星通信利用推進協議会『衛星通信利用による公開講座「人間と環境」』, 1998年3月
- 2 公立図書館等衛星通信利用推進協議会『衛星通信利用による公開講座「本と情報の世界」』, 1998年3月
- 3 浅井経子「テレビ会議システムを利用した遠隔公開授業のあり方と課題ー淑徳短期大学と福島県の7公民館の実験事例ー」『視聴覚教育』, 1998年5月号, pp.14-17
- 4 淑徳大学衛星通信利用推進協議会『衛星通信利用による公民館等の学習機能高度化推進事業報告書』, 1999年3月
- 5 宮崎大学生涯学習教育研究センター『多地点接続によるテレビ会議システムを利用した生涯学習講演会 事業実施報告書』, 2000年2月
- 6 生涯学習審議会『新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策についてー情報化で広がる生涯学習の展望ー』(中間まとめ), 2000年6月